

中里北部地区杜協だより



第52号 平成28年2月12日

発行責任者 竹内 英臣

年末助け合い募金



平成27年の年末助け合い募金には、中里北部地区の皆様の心温まる善意の募金を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

特に、各町内会・自治会役員の皆様には、ご尽力いただきました事を深く感謝申し上げます。

おかげ様で右記のとおり多額の募金を頂戴いたしました事は、皆様の社会福祉に対する深いご理解とご協力の賜物と思います。ご協力ありがとうございました。

(1月8日現在)

町内会・自治会名	募金額(円)
たちばな台町内会	317,794
たちばな台西自治会	62,200
たちばな台東自治会	14,200
たちばな台緑自治会	7,400
寺家町内会	40,000
鴨志田緑自治会	101,200
鴨志田町内会	234,780
グリーンヒル鴨志田東団地自治会	25,500
グリーンヒル鴨志田西団地自治会	64,400
グリーンヒル鴨志田中央団地自治会	0
横浜市営鴨志田住宅自治会	19,600
たちばな台ガーデンハウス自治会	0
合 計	887,074

地域総合防災訓練

防災

☆ 鴨志田緑小学校地域防災拠点の防災訓練 ☆

防災訓練に参加しよう

災害時に備えての共助の一例

鴨志田緑小学校地域防災拠点(避難所)訓練での安否確認と避難支援

青葉区の広報誌で紹介されておりますが、一人では避難が困難な高齢者や障害者(要援護者)があらかじめ情報を登録し、災害発生時に地域で協力し安否確認や避難誘導を行うシステムが既に出来上がっております。この仕組みが「あおば災害ネット」です。

緑小学校地域防災拠点では、地域担当の民生委員と協力し、登録された要援護者への震災時の対応方法を決め、発生時には可能な限り支援を行える体制を整えつつあります。



年一度行われる防災訓練の前に、民生委員は鴨志田・寺家町内での登録者一覧表を作成し、地域地図上の登録者住所にマークし、災害時に直ぐに安否確認の行動に移せる準備を行っています。この一覧表と地図情報は民生委員と防災拠点の委員長が厳重に保管します。担当民生委員が災害時の安否確認に参加出来ない場合でも、防災拠点の救出救護班にこの情報で安否確認ができる体制も取られています。

震災発生時の安否確認は救出救護班が中心となり、救出ボランティア及び民生委員も参加した人員（三名以上）で行いますが、実際の避難支援で人手不足の場合には、トランシーバーで鴨志田緑小学校の対策本部から応援を要請します。自宅での生活が困難な場合には避難所への避難支援を車椅子などで行います

（写真は鴨志田西団地での要援護者の避難支援訓練）

「あおば災害ネット」の登録は地域担当の民生委員と相談し、情報登録のための「支えあいカード」を



作成し、その後青葉区役所のシステムに登録されます。現在、登録者の人数は増加傾向にあります。この仕組みを対象住民の方がもっと知っていただき、登録者がより増える事を期待しております。



阪神大震災から20年、この震災を契機に住民自身による「自助」や地域・近所住民による「共助」の防災認識が高まり、公助を担う青葉区は、41小・中学校等を地域防災拠点（震災時避難場所）に指定し、資機材・食料及び簡易トイレ等の備蓄を進め、無線電話や安否確認用の特設公衆電話機等のハード面の配備を充実させています。緑小防災拠点は地域の自治会からの委員、学校関係者及び事務局7名が加わった約40名が主メンバーですが、震災時にはボランティアが加わり避難者と共同で避難所の運営を行います。

この避難所に加え緑小には震度6弱以上の場合に、医師・歯科医師や薬剤師等からなる診療拠点が開設されます。

緑小防災拠点の平時の主たる活動は震災時を想定した避難訓練であり、緑小・鴨志田中との合同避難訓練には毎年600名余が参加し、飲料水の確保や炊出し等の訓練テーマを設けて実施しています。平成26年度は小中学生による、おにぎり・ポテトサラダ・スパゲッティの炊出し訓練も行い、新しい取り組みとして民生委員、拠点救護班及びボランティアの混成チームが、予め登録された要援護者宅を訪問して安否確認する訓練も実施しました。



平成27年度防災訓練は8月29日（土）に、校庭脇に新たに敷設される下水道直結型トイレ4基を使った訓練も実施しました。

防災拠点の備蓄品や設備等のハード面は徐々に整備されておりますが、避難所を運営する人材は十分でなく、ソフト面での充実が求められています。

住民の皆様も年1度の防災訓練に参加頂くと共に、防災拠点へのボランティア登録にも協力頂けます様お願い致します。

(鴨志田緑小学校地域防災拠点事務局長 三輪恒巳)



鴨志田地域ケアプラザフェスタ



年末も差し迫った、平成27年12月20日(日)
第11回鴨志田地域ケアプラザフェスタが開催
されました。

当日は、風も穏やかな晴天に恵まれ、模擬店や
ステージ発表、作品展示、フリーマーケット、
活動団体の紹介等、多彩な催しで皆様と一時を
過ごすことができました。楽しんでいただけ
ましたでしょうか。



フェスタ開催に当たり、ご来場いただきました
皆様はもちろん、ご協力頂きました関係団体の皆様に紙面をお借りし、御礼申し上げます。

今後も、地域の皆様の活動の場として、鴨志田地域ケアプラザをご利用して頂けるよう、職
員一同笑顔でがんばります。よろしくお願い致します。

(横浜市鴨志田地域ケアプラザ所長 帆苺 薫)

新任の民生委員児童委員さんの紹介



以下のお二方が、平成27年12月1日付けで新たに就任されました。
たちばな台西自治会から峰村 啓子さん(受け持ち担当区域は、たちばな台2丁目2-14、17、
20、23-26、11-5、16、18、19、)です。
鴨志田緑自治会から田村 明美さん(受け持ち担当区域は、鴨志田町 514-528、531)で
す。

ご相談ごとや、ふれあい見守り事業や子育て支援事業ほか、さまざま地域福祉事業に関わっ
て参ります。どうぞよろしくお願い致します。

『横浜市消防 操法技術訓練大会』に青葉区代表として鴨志田消防団が出場

日頃より消防団活動へのご理解、ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

近年、全国各地で大規模災害が発生しており、横浜市内においても自然災害 による被害が
毎年発生している状況です。いざという時に即時対応ができるようにと日々、訓練や巡回警

備、資機材等器具の点検等を行っております。

その中、青葉消防団第2分団は青葉区の中心を流れる谷本川の流域を担当として9個の班で構成され現在男女合わせて消防団員が159名在籍しております。(鴨志田消防団は2分団7班で班長以下18名在籍です)火災現場はもちろん、訓練、巡回警備、防災指導、救命講習等の活動に従事しております。

また我々鴨志田町の7班が平成27年10月17日に実施された『横浜市消防 操法技術訓練大会』に青葉区の代表として出場しました。ちなみに『横浜市消防操法技術訓練大会(消防団の部)』とは可搬式消防小型ポンプを使用し水槽から水を吸い上げ、ホース3本を延長して放水するまでのタイムと、いかに安全確実に操作するかを、補員を含めた6名で競う大会です。



結果は横浜市内各区(18区)の代表消防団ほか全20消防団中、総合で7位、技術審査では4位という成績を収めました。この日のために5月13日より日本体育大学健志台キャンパスをお借りして毎週2回~3回、雨の日も風の日も17時30分より21時まで可搬式消防小型ポンプ操法の訓練を半年間行いました。積み重ねたことが活かされ機敏に活動している姿になり、時には頼もしくも感じました。

以下は10月29日に青葉消防署に提出しました鴨志田消防団の選手や班員の感想です。

【消防操法大会 選手及び班員の感想】

◎訓練中はきつかったが楽しかった。 ◎もう一度出場したい。 ◎仲間は最高!仲間に感謝! ◎燃え尽きました。 ◎もう少し早くから詳しい練習をしたら優勝していたかも(笑) ◎いやいやもう一度、やれるなら優勝かも(笑) ◎素晴らしい仲間と一緒にできました。(仲間に恵まれました) ◎気持ちが熱くなりました。(涙) ◎選手だけではここまでできませんでした。皆さんに助けられました。 ◎ありがとう!そしてごめんなさい。 以上

最後になりましたが鴨志田消防団では、いざという時の災害に備えるために今後とも地域とのつながりを深めながら地域の防火や防災力の強化を図り、より良い活動を行いますので引き続き皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

(青葉消防団第2分団7班(鴨志田消防団)班長 森 治紀)



日帰りバスツアー



社協恒例の日帰りバスツアーが6月23日(火)に、73名が参加して行われました。

「四季の家」前を7時10分出発したバスは、石岡観光農園で、ミカン狩り・柿狩り、筑波神社、筑波宇宙センターと見学しました。天候にも恵まれ、美味しい食事をいただきながら、見学しながら、地域の皆さん同士が楽しく交流でき、全員元気に予定通りの時刻で帰着しました。